



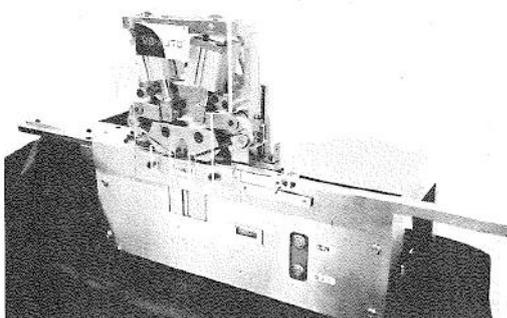
大塚雅一社長

大創(大阪府大東市、072・875・2951)は、自社の溝切りテープ「Gテープ」

「Gテープ」切断機が進化

テーパーカット自動化を実現

大創



正式リリースした「VSオート(手動送りタイプ)」2020年10月に出展し、今回の新商品の発表予定だったと明かした。同展は来年4月に延期された

専用テーパーカット機の自動化モデル「VSオート」を開発した。9月4日には、Zoomを用いたウェビナー形式で新商品発表会を開き、自動平盤打抜機を使う紙器・段ボールメーカーや加工会社など20社以上が視聴参加した。

発表会の冒頭、あいさつに立った代表取締役社長の太塚雅一氏は、ドイツ・テュッセルドルフで開催の印刷機材展「drupa

ウイルスの感染拡大を受け、やむなく出展をキャンセルして、オンラインで発表することにした」と経緯を述べた。VSオートは、Gテープをセットして寸法を設定すれば、ボタン一つで寸法カットと先端のV字テーパーカットを同時に行える自動カットを初めて実現した。そのため、セット時間の短縮や作業省力化が期待される。商品プレゼンテーションは

営業本部部長の宮本智広氏が務め、実演を交えつつ解説していた。既存モデルから進化したポイントは、①寸法精度の「正確さ」②誰でも使える取り扱いの「手軽さ」③先端PETフィルムの飛び出しを防ぐユーザー目線に立った「刃物形状」の3点。正式発表されたVSオートは手動送りタイプだが、さらに進化した自動送りタイプも現在開発中。パソコンに接続し、CADデータからGテープを計測・カットする完全自動モデルで、完成の晩には改めて紹介するとしている。

小ロット多品種生産が多く、その中で利益を確保しなければならぬ打抜き業界で、VSオートの導入メリットは大きい。同社の試算によると理論上、1カ月当たり約120万円分の増収が期待できるとした。

最後に、VSオートを実際に使用して良さを体感するためのトライアル参加も呼び掛けられた。なお、好評につき同内容の発表会が9月24日にも開催された。(姉妹誌「月刊カートンボックス」11月号に詳報予定)

ラベル・紙器・段ボール印刷加工